

2017年(平成29年)12月13日(水) 第20回 例会 (通算2772回)

国際ロータリー 第2580地区

(今月のロータリーレート:1ドル112円)

# 石垣ロータリークラブ週報

No. 2642

会長: 大浜 一郎 副会長: 遠藤 正夫 幹事: 宮城 早人 副幹事: 池城 貞光



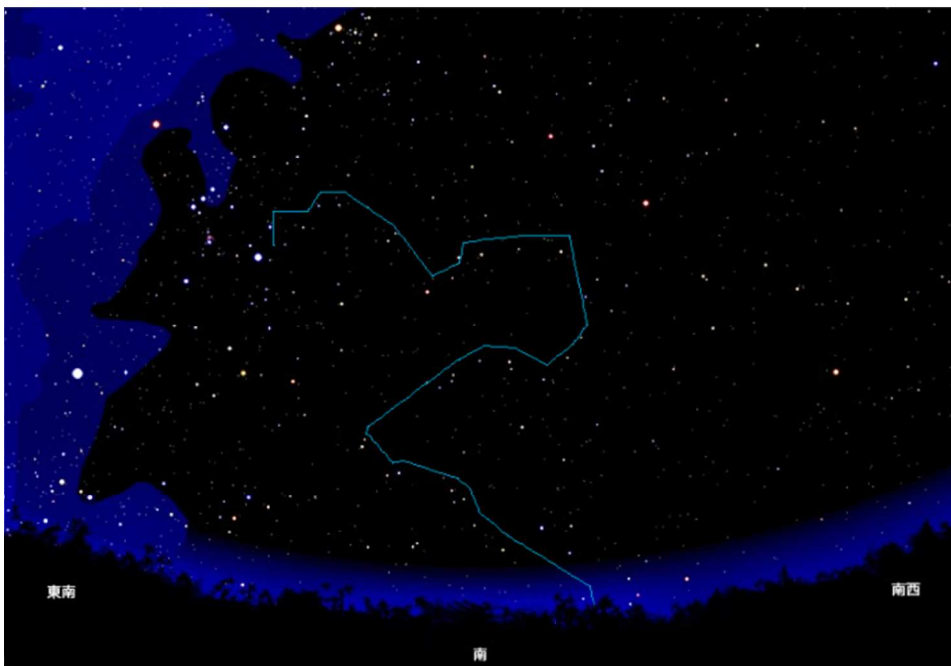
RI 会長:  
イアン H. S. ライズリー

ロータリー:  
変化をもたらす

地区ガバナー: 吉田 雅俊氏「感動と調和」

## ●クラブテーマ「絆とおもいやり」

例会日 水曜日 12:30~13:30  
例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311  
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4  
TEL/FAX(0980)83-2917  
http://ishigaki-rotary.jimdo.com  
E-mail ishirotary@ninus.ocn.ne.jp



◎**エリダヌス座**  
エリダヌスとは川の名前です。夜空でも、とても長い川のように見えます。冬の代表的な星座であるオリオン座のすぐ隣から始まって、下へ下へと流れくだつて、南の地平線までとどきます。沖縄では全景を見る事ができません。

## 12月6日(水)第19回(通算2771回)例会報告

<司会進行> 櫻井 浩一

ロータリーソング・「君が代」「四つのテスト」

ソングリーダー・東上里 和広

ゲスト・・・吉田雅俊氏(第2580地区ガバナー)

大瀧一喜氏( " 副幹事)

安里政晃氏( " 副幹事)

友利敏子氏(沖縄分区ガバナー補佐)

上原慎次氏(沖縄分区副幹事)

メイクアップ・・・小底 厚子・我那覇宗善・大田次男

出席報告

会 員 総 数	41名
出席義務会員	40名
出 席 数	26名
欠 席 数	14名
出 席 率	65.00%
通算出席率(12月)	65.00%



## 本日のこころ

- ・沖縄分区副幹事 (上原 慎次)
- ・吉田ガバナー、地区分区役員の皆さん、今日は大変ありがとうございました。(大浜 一郎)
- ・吉田ガバナー公式訪問に感謝 (仁開 一夫)
- ・吉田ガバナー、地区役員の皆様ご来島ありがとうございました。(大浜 勇人)
- ・吉田ガバナー、本日はよろしくお願ひ申し上げます。(今西 敦之)
- ・吉田ガバナー、大瀧副幹事、友利ガバナー補佐、上原副幹事、安里副幹事、ありがとうございました。(宮城 早人)
- ・元旦五女結婚いたしました。五人全て完売いたしました。(米盛 博和)

BOX	¥ 7,000	(累計¥106,000)
コイン	¥ 4,574	(累計¥ 50,462)
合 計		¥ 156,462

## 会長挨拶：大浜 一郎



今日は吉田ガバナーをお迎えしての公式訪問ということで、お集まりいただきました。ありがとうございます。昨日から大変吉田ガバナーと懇親を深めております。

本日クラブ協議会で、ガバナーから例会の柔軟性、それから出席率を上げるための柔軟性についてご教授頂きましたし、特に青少年の交流の件で地区との連携に関するお話も頂きました。色々な分野でサジェッション頂きましたので、これをまた会で取り組みをさせて頂きたいと思っております。また今日はご報告もございまして、吉田ガバナーご夫妻が12月5日でご結婚42周年記念日を迎えたという事でございます。今日はケーキをご用意しておりますので、ぜひ皆さんでお祝いしたいと思います。

これから吉田ガバナーから色々ご指導、またご挨拶があると思っておりますので、楽しみに今日の例会を進めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

## ゲスト卓話：吉田 雅俊氏

### 第2580地区ガバナー



皆様改めまして、こんにちは。石垣 RC 公式訪問は、69 クラブありますが 64 番目になります。これが終ると残り 4 クラブで全て完了になります。私は東京新都心 RC に所属しておりまして、この7月からガバナーに就任しました。公式訪問が終わりますと、地区大会、日台会議、そして6月の世界大会で全てお終いという事です。

今年度の RI 会長のテーマは『ROTARY : MAKING A DIFFERENCE (ロータリー：変化をもたらす)』です。それぞれどの様な方法で奉仕をすることを選んだとしても、奉仕を通じて人々の

人生に変化をもたらし、その活動が、人数が多かろうと少なかろうと、誰かの人生をより良くしていける。この事が我々ロータリアンに充実感をもたらして、また人生に変化をもたらす。こういう事かと思えます。ロータリー活動はまさに我々奉仕をする側も、そしてまた奉仕を受ける側もそれぞれに何か変化が起きると、それがまたロータリー活動の醍醐味だと思います。

そして RI の戦略的優先事項3点。まず1点目はクラブのサポートと強化。これは世界的傾向ですが、200 カ国、123 万人のロータリアンがいます。しかし今年は若干前年度よりも増えましたが、ずっと漸減傾向続けております。RI としても会員の減少については大変問題視して、どうこれを増加に転ずるか。2つの要素があります。1つは男性、女性の比率です。28年前 RI の規定審議会で女性会員が承認されました。そして昨年、女性会員の割合が20%。日本全体では女性会員が6%弱、当2580地区は6%強という状況です。やはり女性の社会進出を見ても、少なくとも20%くらいはあってもいいのかなど。世界的には40%くらいにしたいということです。もう1つは世代間の人員格差。40歳以下のロータリアンが世界的に見ても5%、年齢を登録しているロータリアンの大半が60歳、日本だけではなく、かなり会員の年齢が上がってきています。10年後を考えた時に、私を含めてロータリアンでいられるかどうかを考えると、もう少し若い人たちに入ってもらいたいという事です。

2つ目の優先事項が人道的奉仕の重点化と強化です。我々が力を入れている人道的奉仕の代表的なもので、ポリオプラスがあります。今年で15人ポリオ感染者がありますが、この15人がいなくなって3年経過して、0が続けば撲滅ということになるので、今一步という所まで来ています。その他にも様々なものがあります。

3点目はロータリーの公共イメージの認知度の向上。これにつきましては、ここのクラブは報道機関で言えば新聞、八重山日報の方もいらっしゃいますし、まさにマスメディアとしては一般社会に影響力のある、この辺りに我々ロータリアンがどういう仕事をしているのか、どういう活動をしているのか、ロータリーの奉仕によってどんなことが、つまりどういう変化をもたらすかをぜひタイムリーに報道して頂けると、ロータリー活動のいろんな方々の評価も得られるし、また大いに仲間も増えて行くんじゃないかと思えます。増強と言うのは勧誘ではなくて、仲間作りでありますか

ら、特に沖縄の方々はお仲間は創る上においてはどの県に比べても最も得意とされる方が多いと思いますので、ぜひ仲間作りをやって頂きたいと思います。

私の今年度のキーワードは、『感動と調和』です。感動するぐらいの行動というものは、皆さんいろんな方々の認識だけでなく、評価また参加しようという気持ちになってくるわけですし、全ての我々の活動の中に感動を生むような仕組みを作っていきたいと思います。そしてまた調和は、皆さんいろんなお仕事をなさっていると思いますが、そのお仕事は社会と調和して初めて仕事として認められるわけであります。世の中と全く関係ない仕事はあり得ないわけです。ロータリー活動も我々が独りよがりになったり、他の社会と遊離してしまうようになってはいけません。原理主義者になってはいけません。感動と調和という2つの言葉をキーワードに奉仕をやって頂きたいということでもあります。

行動指針としては研修と実践。言い換えると研修は知識を積む、実践はその知識を生かして事を起こす。実践するには、そこには知恵がなければいけない。つまり行動と実践と言うのは、料理で言えば、レシピと調理です。いくらレシピがあっても調理は経験とか工夫が必要になってくる。その経験とか工夫は知恵だと思います。行動指針としては研修と実践、つまり知識と知恵と言うことをお願いするわけであります。

最後に私のロータリーモーメント。ネパールに200の井戸を掘るという事で、現地のカトマンズにあるロータリークラブと一緒に、グローバル補助金の申請を2年前出しました。それが今年の2月に承認されました。そして5月18日にクラブの雄志9名と現地視察に行きました。井戸を掘る所は、チトワンという貧困層の多い農村ですが、井戸がないわけじゃないんです。ネパールはヒンズー教徒が84%で、カースト制度なんです。カースト制度は今法律で禁じられていますが、貧困層の多い、貧しい国ではそういう差別がなかなか無くならない。最下層の人達は井戸の水は貸してもらえないわけです。従って、朝20分以上かけて川に水を汲みに行くというのが日課になっているわけです。我々は5カ所見て歩きました。1カ所目はお母さんとおばあさんとお父さんと子ども3人、我々が行きましたら、お母さんとおばあさんが両手に野で摘んできた花を持ってきたんです。通訳が言うには、彼らは本当に喜んでいる、貧しいから何もお礼をするすべがないので、朝早

く野原に行って綺麗な花を捜して摘んで持ってきたんだと。そう言われて、おばあさんの潤んだ目を見ると良かったなという気持ちと、その花束、私は今までいろんな場面で花束頂きましたが、どの花束よりも、悲しさも含め、胸にどんと来ました。2つ目の井戸では4、5人の5・6歳の子供達が水遊びをしていました。私の孫たちと似たような年頃の子もいたので、思わず微笑んでしまったわけですが、通訳が言うんです。あの子達は生まれて初めて井戸水で水遊びをしていると、水は貴重なので、水遊びなんて出来ないんですね。まして井戸の水を使う事もできない。そういう中ですから、本当に子どもたちも喜んでいるわけです。親たちもそれを見て、安心して笑っているわけです。私は生まれる所が違った、たったそれだけでこんなに違うんだと、自分の孫たちの事を思い返して何とも言えない、微笑ましいというよりは悲しい気持ちになりました。3つ目の井戸に行きますと、少女が一生懸命水を汲んで顔を洗って、頭をいつまでも洗っているんです。通訳が彼女は本当に喜んでます。こういう風に洗えるんだと、嬉しさを言葉に言うのは恥ずかしいので、自分はこんなに嬉しいんだと一生懸命やって見せているんだというわけです。彼女が洗っている髪の毛をたくし上げてこちらを見上げた時に、ふっと目と目が合って、今でも忘れないんですけど、本当にはにかんだような、恥ずかしそうな、でも本当に嬉しい、良かったとこっちが思うような顔をしていて、何とも言えない気持ちになりました。4つ目の井戸は掘る過程でしたが、4本の木をやぐらに組みまして、そのやぐらに登って、鉄のパイプをハンマーで打ち込んで行くんです。それが水脈に当たりますと井戸の水が出てくる。それを延々と続けて、水脈に当たらなければもう1度やり直す。機械でやれば良いと思うんですが、機械は高いし、使える人も少ないし、また壊れたら直せないし、燃料もかかるし、色んな海外支援で機械を現地に持っていくケースがありますが、2年か3年後にそこに行くと、機械が単なる鉄くずになっていて、結局はその人達は昔ふうの仕事をしているという事が、よくあったということを聞いた事がありますが、まさに井戸も機械で掘るよりも人手で掘った方が間違いなく、彼らは掘り続けることができる。そして1本2万円ちょっとで掘れるということ。5つ目は井戸はパイプが入っている。後はくみ上げるポンプを組み立てて、そして呼び水をさして、水が出てくるという段階で、我々が組立をやりまして、その光景をカトマンズ

のテレビ局と新聞社、同行取材をしまして、私も初めて水くみ上げ用のポンプを組み立てた時、水が出たんです。嬉しかったですね。水が出た瞬間に良かったと、同じ光景を見ていた井戸をもらう対象になる方がいまして、お母さんと病身のお父さんと子ども3人なんです。本当に涙を流して喜んでいる。そのお母さんがインタビューされまして、通訳によると、お父さん病気で倒れていまして、自分が近くの農家に行って農作業を手伝って、わずかな工賃をもらって病身の夫と子ども3人を養っていると、十分な事もできずに大変苦労していると、井戸が出来たおかげで、ボロボロ家なんですけど、お父さんの身体も綺麗にしてあげられるし、子どもたちの服も洗濯できるし、何よりも近くの空き地にとうもろこしを植える事ができると、植えたとうもろこしを子どもたちに食べさせてあげることができると、そうすると少しでも飢えをしのぐことができる、こんなに嬉しい事はない。正に水と衛生、母子の健康、4つの重点項目のうち2つに該当するわけです。

でもこれで終わりではないんです。この井戸がこれから先もずっと使われ続けて、この地域の人たちのためにならなければいけない。その為には保全もしなければいけないし、ちゃんと水の使い方や、水が出るだけでなくそれに関して、水と衛生、母子の健康ということは指導もしなければいけない。RIの会長が言っていますが、無医村に病院を建てる。それで終わっては奉仕としては次に繋がっていかない。その建物がその地域の人たちによって運営されて、その地域の人たちのためになっていく。ここまで行かないと本当の意味での奉仕にならない。継続性と持続可能性。我々もその井戸に関しては、現地のロータリーとBB財団という福祉財団の人たちが一緒になって、今いったようなことをやり続けて行く。我々4・5年に1度そこに行って、出来る事はその場で色々工夫してやっていく。1つの井戸に15人くらいが受益するわけです。ですから200の井戸で3,000人の人たちが、そのおかげで人生が変わる『ROTARY: MAKING A DIFFERENCE』という事になるわけです。

石垣 RC の皆さん、60周年には周年事業の中の1つに奉仕を加えて頂ければありがたいと思います。今朝の10時半から今まで長時間にわたりまして、皆様と時間を共有してロータリーについて語り、そしてそれぞれ抱負を語り合ったわけですが、ぜひあと半年間でありまして、今年度石垣 RC のさらなる発展の年になるように心から祈念いたしております。ご清聴ありがとうございました。

## ～ガバナー公式訪問～



今週の

HAPPY BIRTHDAY

- ★ 漢那 憲仁氏(1949年12月18日)
- ★ 前木 繁孝氏(1954年12月19日)
- ★ 遠藤 正夫氏(1957年12月25日)